

わらび議会だより

2017・12

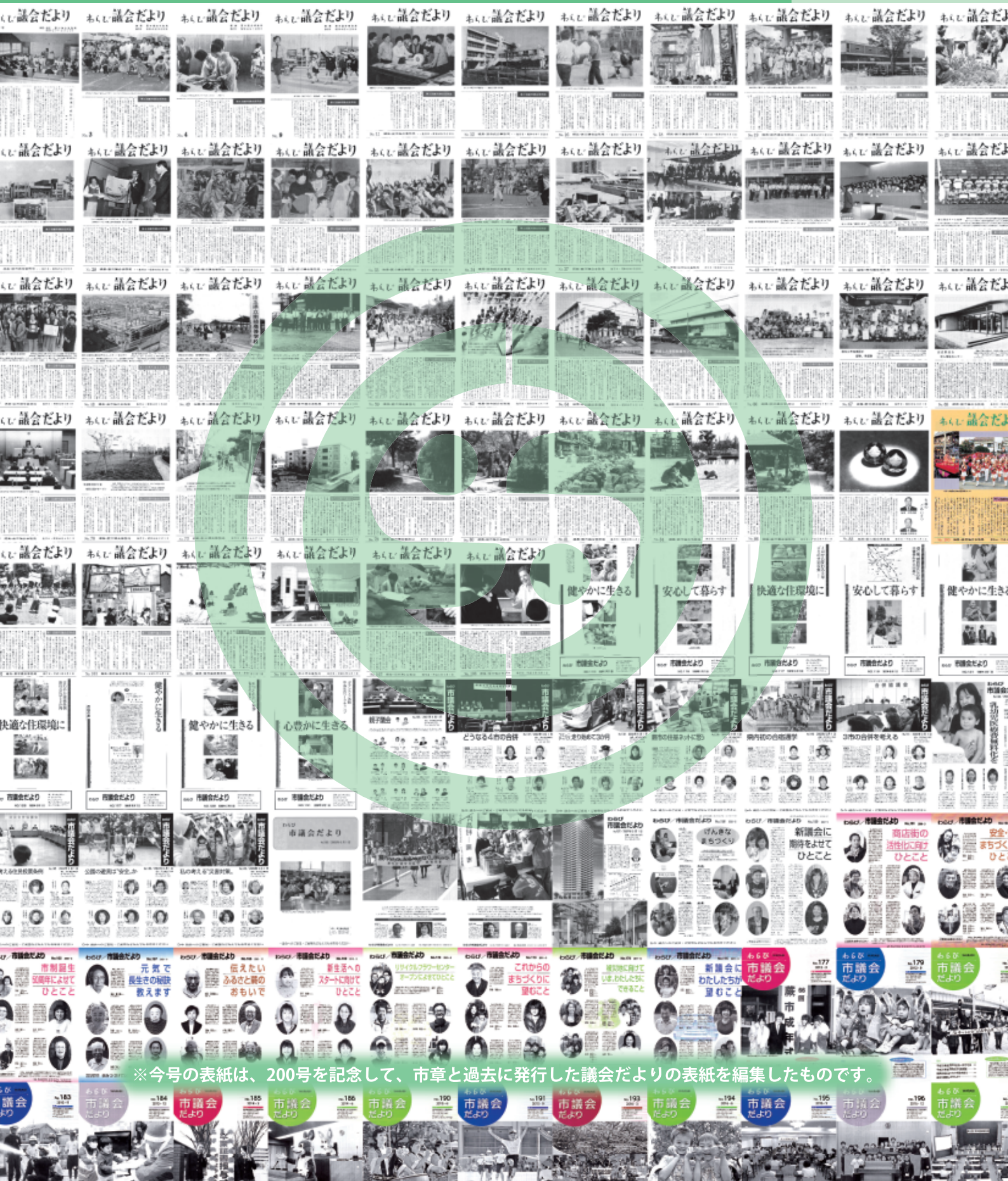
No. 200

記念号

編集

※創刊号のタイトルを使用しています

蕨市議会広報広聴委員会 TEL/048-433-7733 FAX/048-432-7991 Eメールアドレス gikai@city.warabi.saitama.jp



※今号の表紙は、200号を記念して、市章と過去に発行した議会だよりの表紙を編集したものです。

未来輝くまちを目指し 皆さんと歩む蕨市議会

わらび市議会だより 第200号 記念特集



蕨市議会副議長
前 川 やすえ

わらび市議会だより
第200号
発刊に寄せて



蕨市議会議長
池 上 智 康

わらび市議会だよりは、今号で節目の200号を迎えることができました。これもひとえにご愛読くださっている市民の皆さまのご支援の賜と心より感謝申し上げます。

市議会では、市民の皆さまに身近で開かれた議会を目指し、議会改革を進めておりますが、議会の情報発信の重要性はますます高まるものと考えています。情報伝達革新に伴いデジタル化が急速に進んでおりますが、貴重な紙媒体である市議会だよりが更に見やすく、わかりやすい紙面となるよう、議員一同、より一層の努力をまいります。

わらび市議会だよりは、昭和43年4月の創刊号発行以来、平成29年12月の本号で200号となりました。蕨市の歩みとともに、数々の出来事に真摯に向き合い、議論を展開してきた蕨市議会は、市民の皆さんの安全・安心で心豊かな未来輝くまちを追いかけてきました。そこで、今号は200号の節目に、あらためて市議会の足跡をたどります。



▲昭和35年当時の本会議



▲親子議会の風景（平成13年）



▲北小学校3年生の議場見学（昭和54年）



▲蕨市庁舎竣工落成（昭和39年）

2004年 (平成16年)	2001年 (平成13年)	2000年 (平成12年)	1999年 (平成11年)	1995年 (平成7年)	1992年 (平成4年)	1991年 (平成3年)	1985年 (昭和60年)	1980年 (昭和55年)	1968年 (昭和43年)	1964年 (昭和39年)	1959年 (昭和34年)
6月	7月	9月	3月	7月	6月	7月	9月	9月	4月	5月	4月
「蕨市が川口市及び鳩ヶ谷市と合併することの是非に関する住民投票条例」を議決	親子議会を開催	総務・厚生・建設・文教経済の4常任委員会を総務・環境福祉経済・教育まちづくりの3常任委員会に改編	本会議の一部を蕨ケーブルビジョンで放映開始	議員定数を26人から24人に削減	「わらび市議会だより」をB5判からA4判に変更	議員定数を28人から26人に削減	議員定数を30人から28人に削減	議員定数を30人から28人に削減	「わらび議会だより」を創刊	市役所庁舎竣工落成	蕨市が誕生 埼玉県で23番目、全国では547番目の市 当時の人口4万4496人 市制施行後、初の市議会議員選挙 (議員定数30人)

蕨市議会の歩み

若者が活躍するまちへ

合宿通学のお手伝いや学校土曜塾で学習アドバイザーをしています。若者が地域に貢献しながら活躍できるように議会がたくさん議論していただき、事業がもっと増えるとうれしいですね。



なかむらきとろう 中村 杏太朗さん
南町1丁目 20歳

子育てしやすいまちに

4歳と2歳の子供がいます。公民館などの子ども向け教室をよく利用していて、子育てしやすいまちだと実感します。子育て環境の更なる充実に尽力される議員さんに期待しています。



きのした りつこ 木之下 那津子さん
中央7丁目 36歳

開かれた議会に期待

議会のインターネット中継や議会報告会を行い、議会の広報に力を入れていることを知りました。開かれた議会を目指して、これからも市民にわかりやすい議会活動の周知に努めてほしいです。



しげの りつ志 重野 仁志さん
塚越6丁目 55歳

みんなにやさしいまちを

議会が市政をチェックすることで、市の予算が適切に使われていると思います。議員さんには身近な課題に取り組んでいただき、子どもから高齢者までみんなにやさしいまちづくりを望みます。



いづかみ とみ子 石川とみ子さん
北町5丁目 66歳

頑張る議員さんを応援

議会だよりを読むと議員さんが市民の生活をよりよくしようと真面目に取り組んでいるのがわかります。市民の声を市政に反映するために、これからも意欲的に活動していただきたいですね。



たかはし かずお 高橋 一夫さん
錦町6丁目 77歳



第100号 平成4年12月発行。100号記念に表紙をカラーにして中仙道宿場祭りを鮮明に写しています。



創刊号 昭和43年4月発行。B5判8ページで構成され、当初予算や一般質問の内容を掲載しています。

「わらび市議会だより」の変遷
わらび市議会だよりは、市民の皆さんと議会の架け橋として、審議の経過や結果をいかにわかりやすく皆さんにお伝えするかを考え発行してきました。200号に至るまでには、表紙の在り方や文字の大きさ、紙面のサイズなど、大きく分けて5つの変化が見られます。



第177号 平成24年3月発行。表紙を一枚写真にするなどのレイアウトを変更し、現在に至っています。



第161号 平成20年3月発行。白黒から2色刷に変更し、一般質問者の氏名と写真の掲載を始めました。



第110号 平成7年6月発行。B5判からA4判に変更し、地域福祉をテーマにした記事を掲載しています。



▲現在の市議会



▲女性議会の開催（平成21年）

2017年 (平成29年)	2016年 (平成28年)	2015年 (平成27年)	2014年 (平成26年)	2012年 (平成24年)	2010年 (平成22年)	2009年 (平成21年)	2008年 (平成20年)	2007年 (平成19年)	2005年 (平成17年)	
5月	12月	9月	6月	12月	3月	11月	9月	3月	7月	8月
・第2回「議会報告会」を開催	・第1回「議会報告会」を開催 ・議会だより編集委員会を広報広聴委員会に改編	・市議会の最高規範となる「蕨市議会基本条例」を議決 ・本会議のインターネット中継・録画放映を開始 ・請願・陳情者による意見陳述制度の運用開始	・一般質問における議員の発言時間を30分から35分に拡大	・市民が主役の活力あるまちをつくることを目的とした「蕨市民参画と協働を推進する条例」を修正可決	・「蕨市議会50年の歩み」を発行	・女性議会を開催	・議会だより編集委員会を新たに設置 ・わらび市議会だよりを2色刷に変更し、一般質問者の氏名と写真の掲載を開始 ・決算常任委員会を新たに設置	・議員定数を24人から18人に削減 ・市議会議場にマイクシステムを導入、質問席の設置	・わらび市議会だより第150号を発行	・「蕨市が川口市及び鳩ヶ谷市と合併することの是非に関する住民投票条例を廃止する条例」を議決

9月定例会において 市長提出全14件を原案可決・認定・推薦

9月定例会の概要

9月1日 開会

市長より市政についての報告がなされました。

9月7日 質疑

提出議案に対する質疑を3名の議員が行いました。

9月8、11～15日 常任委員会

決算・総務・環境福祉経済・教育まちづくり常任委員会を開催し、議案や決算の審査を行いました。

9月25～27日 一般質問

15名の議員が市政の重要課題を取り上げ執行部の見解を問いました。(6～13ページ参照)

9月29日 閉会

14件の市長提出議案・決算認定を全て原案可決・認定し、1件の議員提出議案を原案可決しました。

今定例会で可決された主な議案
スポーツ環境・教育の充実

◆蕨市スポーツ広場設置及び管理条例の一部を改正する条例

現在、人工芝化の改修を進めている錦町スポーツ広場において、平成30年2月のリニューアルオープンに合わせて広場の利用を許可制にします。また、広場や夜間照明の使用料を徴収するため、条例の一部を改正しています。

◆平成29年度一般会計補正予算(第1号)

今回の補正予算は、3千622万7千円を増額し、総額を237億2千622万7千円としました。

主な内容としては、臨時福祉給付金給付事業における国への返還金を計上したほか、狭隘道路拡幅整備事業の工事請負費等を増額しています。

また、教育費においては、埼玉県委託事業として、道徳教育の教科化実施に向けた研究を行う「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」に関する経費を計上しています。モデル校となる西小学校では、校内授業研究会や外部講師の講演会、市内小・中学校に向けた研究発表会等を行います。

平成28年度一般・特別・企業会計決算を全て認定

平成28年度決算については、決算常任委員会が3日間の審査を行った後に、本会議で一般・特別・企業会計決算9件を全て認定しました。

決算常任委員会で審査した内容のうち、最も審査時間を要した一般会計(歳出)の審査項目の一部を下記のとおり紹介します。
例年同様に総務費・民生費・衛生費・土木費・消防費・教育費を中心に、市のお金の使い方について、詳細にわたり審査が行われました。

総務費



〈主な審査内容〉

各種相談事業の内容と改善に向けた取り組み、コミュニティバス運行事業の経費と費用対効果、子育てしたいまち情報誌の活用状況、等々

民生費



〈主な審査内容〉

市単独事業の見直し、生活困窮者学習支援事業の効果、生活保護のケースワーカーの担当世帯数と費用の抑制に向けた市の見解、等々

土木費



〈主な審査内容〉

上戸田川整備事業の内容と事業展望、三世代ふれあい家族住宅取得支援事業の費用対効果、跨線橋の点検費用と改修方針、等々

消防費



〈主な審査内容〉

救急・火災出動の平均到着時間と出動訓練の内容、集中豪雨による水害の発生状況、大規模災害時に必要な消防車両の台数とその充足、等々

教育費



〈主な審査内容〉

学校トイレの洋式化率と臭気対策、信濃わらび山荘の費用対効果を考えた存続に対する見解、図書館の耐震診断の結果と改修方法、等々

北朝鮮による弾道ミサイル発射及び 核実験に対し抗議する決議

本会議最終日に、議員提出議案として、同決議を全会一致で可決しました。

概要 蕨市議会は、北朝鮮による弾道ミサイルの開発・発射並びに核実験・核開発の即時中止を求め、断固抗議するものである。

また、日本政府においては、

我が国の平和と安全の確保、国民の安全に万全を期し、国際社会と連携・協力のもと、北朝鮮に対して弾道ミサイルの開発・発射並びに核開発・核実験の即時中止及び放棄、拉致問題の早期解決を求めるべく、毅然とした措置を講ずるよう強く要望する。

平成29年9月定例会における議案等に対する賛否結果

議案番号	議案名	新生会	共産党	公明党	民進党	無所属	結果
議案第58号	蕨市スポーツ広場設置及び管理条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	原案可決
議案第59号	平成29年度蕨市一般会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	×	原案可決
議案第60号	平成29年度蕨市介護保険特別会計補正予算（第1号）	○	○	○	○	○	原案可決
議案第61号	人権擁護委員候補者の推薦について	○	○	○	○	○	推薦
議案第62号	平成28年度蕨市水道事業会計剰余金の処分について	○	○	○	○	○	原案可決
認定第1号	平成28年度蕨市一般会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	退席	○	原案可決
認定第2号	平成28年度蕨市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	○	認定
認定第3号	平成28年度蕨市公共下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	○	認定
認定第4号	平成28年度蕨都市計画事業錦町土地区画整理事業特別会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	○	認定
認定第5号	平成28年度蕨市介護保険特別会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	○	認定
認定第6号	平成28年度蕨市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	○	認定
認定第7号	平成28年度蕨市公共用地先行取得事業特別会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	○	認定
認定第8号	平成28年度蕨市立病院事業会計決算認定について	○	○	○	○	○	認定
認定第9号	平成28年度蕨市水道事業会計決算認定について	○	○	○	○	○	認定
議員提出議案第4号	北朝鮮による弾道ミサイル発射及び核実験に対し抗議する決議	○	○	○	○	○	原案可決

※議案第58・59号及び認定第1・5号については質疑が、議案第59号については討論が行われました。質疑・討論の詳細内容は蕨市ホームページの「蕨市議会」からご覧になることができます。

議員派遣報告

第79回 全国都市問題会議

人がつなぐ都市の魅力と地域の創生戦略
～新しい風をつかむまちづくり～

11月9～10日の2日間にわたり、全国各地より市長・市議会議員・市職員等が参加し、都市の抱える問題や今後の地方自治のあり方について議論する「第79回全国都市問題会議」が那覇市で開催され、本市議会からは3名の議員が参加しました。

1日目は、東京大学史料編纂所教授の山本博文氏から「多様性のある江戸時代の都市」と題し、江戸時代におい

ては大都市の発展とともに、参勤交代による宿場の繁栄など、大都市の一人勝ちにならない構造があり、現在の日本の町の原型が作られたことなどが説明されました。

また、那覇市長の城間幹子氏から、観光産業の発展、コミュニティの力による子どもの貧困対策や健康長寿の延伸に向けた取り組みなどの市政の報告があり、その他に3人の市長や大学教授から一般報

議員研修会報告 「災害時における市議会議員の役割」

去る8月28日、跡見学園女子大学教授の鍵屋一先生を講師にお招きし、議員研修会を開催しました。

講演では、大規模災害時において、議会は通常の議会活動を休止して市の災害対策本部を支援すること、議員は各地域において地域リーダーの

一員として行動すること、各議員が得た情報等は窓口を議長に一元化すること、そのための体制整備が必要であることなどが説かれました。

今回の研修会は、市議会の災害対応について全議員が認識を共有することができ、大変有意義なものとなりました。



告がありました。
2日目は、早稲田大学理工学術院教授の後藤春彦氏をコーディネーターに、今回のメインテーマに基づいたパネルディスカッションが行われ、5人のパネリストがそれぞれの専門的視点から、討論を展開して議論を深めました。

